

生活科から総合的な学習へのつながり

～課題設定力・価値判断力を高める実践を中心に～

鎌倉女子大学初等部 秋本篤志

1. 鎌倉女子大学初等部の学校環境

2. 鎌倉女子大学初等部の研究主題（平成 23 年度より）

子どもが輝く授業の創造 ～みんなと学び合う喜びを感じて～

「主体的な伝え合いを通して、深め合う」

・子どもが輝く

子どもが主体的、意欲的に取り組んでいる姿（熱中する、悩む、真剣に考える）

子どもがわかったと納得したという達成感をもつ姿

（「あっ！」というつぶやきや、思わず笑顔になる）

子どもがあきらめず、最後までやりぬく姿（粘り強く取り組む）

・みんなと学び合う喜びを感じて

人と関わりをもち、学級で学び合うことに喜びを感じられる子ども

・主体的な伝え合い

子どもが話したい、聞きたい、思いを伝えたいという気持ちをもって取り組む伝え合い。

先生対子どもではなく、子ども対子どもで子どもたちが中心になっておこなう伝え合い。

習得した知識・技能を活用して、自ら考え、友達に働きかけていく伝え合い。

・深め合う

出てきた意見や考えをより良いものにしていく。

今までなかった見方、考え方を生み出していく。

はっきりとわかっていなかったものがはっきりとわかるようになる。

研究の仮説

各教科で子どもが話したい、聞きたい、考えを伝えたいという主体的に伝え合おうとする学習を行っていくことで、授業だけでなく、日常生活の場面でも生かされる伝え合う力をもった子どもを育てることが出来ると考える。また、その伝え合いから思考を深めたり、理解を深めたり、課題を解決したりする学習を行っていくことで、人との関わりの中で、自らの考えを深め、解決していく力をもった子どもを育てていくことが出来ると考える。

各教科での学習で得た力が絡み合い、日常生活でも使える、伝え合う力を身に付

けるとともに、そこから深め合えるようにしていく。

3. 生活科における目指す児童像

生活科は、1、2年の低学年のうちにしかない教科である。2年間を通して具体的・直接体験を重視した学習活動を展開する。生活上必要な習慣や技能を習得させ、自立への基礎を養うことが教科の目標である。教科の内容構成としては、ア) 健康で安全な生活、イ) 身近な人々との接し方 ウ) 地域への愛着 エ) 公共の意識とマナー オ) 生産と消費 カ) 情報と交流 キ) 身近な自然との触れ合い ク) 時間と季節 ケ) 遊びの工夫 コ) 成長への喜び サ) 基本的な生活習慣や生活技能、が指導要領ではあげられている。よって、2年間の生活科の学習では、ア) ～サ) のふまえた指導を行っていく。

初等部では、2年間の生活科の学習を通して、子どもの「生活力」を高めていきたい。ここでいう「生活力」とは、子どもが今現在および将来的に生きていくのに身につけておくべきよい力のことである。例えば、安全な生活をおくるためには、廊下や階段を走らない、公共のものを正しく使うことができればよいと考えられる。目に見えてできるだけではなく、心情面も同時に育てていく必要がある。実際の体験を通して、そのようにしたほうがよい、そうしたいと自分で考えることができるような子どもを育てていきたい。

次に、共通の体験を通して、自分なりの思いを持つことができる力を身につけさせていきたいと考えている。そのためには、自分のまわりのもの・人・できごとに対して、広くアンテナを立てた子どもを育てていきたい。低学年の児童の特徴として、自己中心的なところがある。まずは自分が中心でもよいので、自分の回りにはいろいろなものや人、できごとがあるということに気付けるようにしていきたい。その上で、自分の思いをお互いに表現したり、比べたりしたりして共に学び成長していくことの喜びを感じられるような子どもを育てていきたい。

- ・ 当たり前のことでも、「不思議だな」「すごい」「あれ？」と感じることのできる子ども。
- ・ 知らないことを「なぜだろう？」と受け入れ、解決するための手立てをさぐろうとする子ども。
- ・ 学んだこと、経験したことを次にいかすことのできる子ども。
- ・ 人の考えを聞き入れ、「なるほど」とうなづくことのできる子ども。また、そこから自分なりの考えも生み出すことのできる子ども。
- ・ 知らないことを素直に受け入れ、新しいことを知ることの喜びを感じることのできる子ども。
- ・ 自然に関心をもち、大切に観察したり育てたりしようとする子ども。
- ・ 自分の気づきや考えを進んで人に伝えようとする子ども。
- ・ 自分のよさや成長を感じたり、喜んだりすることのできる子ども。
- ・ 集団生活になじみ、集団の中での自分の存在に気づくことのできる子ども。
- ・ よい習慣・適切な技能を身につけている子ども。

《よい習慣とは》

- ・ 生活のリズムを整える
- ・ 病気の予防に努める
- ・ 安全への意識を高める
- ・ 道具や用具の準備、片付け、整理整頓ができる
- ・ 遊びのルールを守る
- ・ 施設や公共の場所のルールやマナーを守る
- ・ 時間を守る
- ・ 適切なあいさつや言葉遣いができる
- ・ 訪問や連絡、依頼の仕方を知るなど

《適切な技能とは》

- ・ 手や体を使って友達と仲良く遊ぶ
- ・ 必要な道具を使って遊んだり、ものを作ったりする
- ・ 動物や植物の世話ができる
- ・ 電話や手紙などを使って連絡するなど

4. 生活科における伝え合いの到達目標（目指す児童像）

【生活科のキーワード】

子どもの主体的な体験・共通体験（もの・人・こと）を中心に
活動・気づきの質を高める

価値判断の基礎の育成（主に子ども同士の話し合いを通して）

発表・・・主に教師の発問に対しての発言

話し合い・・・教師一子ども（複数の子ども）

子ども一子ども（少数グループ）

子ども一子ども（全体）

(1)表出（話すことなど）

教科 の 特 色	・自分が体験したことをもとに、自分なりの理由をもって話す。【授業中の発表・話し合い】	4	4	※1)動植物を育てる活動の中で、自分なりの思いをもってお世話をしようにすることができる。	※2)家族・友達・教員などの身近にいる人に関心をもち、自分から関わりをもとうとすることができる。
	・身の回りのもの(自然・場)に対して、自分なりの思いをもって関わる。(※1)	4	5	四季の自然を感じ、自然の素材をいかしてものづくりをしたり、友達と遊んだりすることができる。	一緒に遊んだり、話をしたり、活動の計画をたてたりすることができる。
	・身の回りの人に対して、自分なりの思いをもってかかわる。(※2)	3	5		友達の行っている活動(作る・育てる・まとめる)を見て、相手の活動がよりよいものになるようにアドバイスをすることができる。
	・自分が体験を通して新しく知ったことや気付いたことを絵や文に表したり、話したりして伝える。	4	4		

(2)受容（聞くことなど）

教科 の 特 色	・人の話していることを聞く中で、自分の考えと同じところや違うところを受け入れる。【授業中の発表・話し合い活動】	3	5	※3)五感・・・見る、聞く、におう、味わう、ふれる実際にその場所に行ってみて、そこにあるものを見つけるなどの体験を通して、自分とものの関わりに気付くことができる。	※4)自分の身近な生活に関係している人がいることに気づき、さらにその人たちが自分を成長させていることに気付くことができる。
	・身の回りのもの(自然・場)を五感を通して関わりをもち、自分なりの思いをもつ。(※3)	4	5	動植物の育ちや変化に五感を通して気付くことができる。	自分の行っている活動(作る・育てる・まとめるなど)に対する人からのアドバイスを受け入れ、自分の活動の質を高めることができる。
	・身の回りの人との直接・間接的な体験を通して、相手の思いに気付く。(※4)	3	5	友達の行っている活動(作る・育てる・まとめるなど)を見て、自分の活動を見直すことができる。	

(3)伝え合い（話し合うことなど）

教科 の 特 色	・共通に体験したことをもとに、その時の話題にそって話し合いに参加する。【授業中の話し合い活動】	3	5	※5) 上述の※1～4の内容をそれぞれの単元の中で行うことができる。	
	・上述の表出・受容の活動体験を通して、自分の成長に気付いたり、自分の生活をよりよいものにしようとしている。(※5)	4	5	伝え合いの活動を通して、生活科の授業の中だけでなく、休憩時間や家庭でも学習したことを活かして、生活しようとする事ができる。	

気づきの質を高める・高め合う＝深め合う

④目指す児童像

自分の生活に活かす
自分のよさに気付く

共に高まり合う
他人のよさに気付く

ねばり強く取り組む
こだわりをもつ

- ・動植物のお世話をする。
- ・四季の自然を感じる。
- ・家族、友達、教員と関わる。
- ・活動の計画をたてる。
- ・アドバイスをする。
- ・見る、聞く、におう、味わう、触れる。
- ・成長に気付く。

など

伝え合う力

使う

選ぶ

比べる

見つける

気付く

感じる

- ・国語科を中心とした「話す・聞く」。
- 「書く」「読み取る」力。
- ・数字や図で表す力。
- ・絵に表現する力。
- ・本やパソコンで調べる。

など

③学習に必要な力

生活科

他教科

受け入れる力

伝える力

教材の選択・吟味

共通の

生活体験・学習体験

子どもの見取り

②課題設定

もの 人 こと 家庭 学校

達成したことや失敗したことから学ぼうとする。
友達との関わりの中から、前向きに学ぼうとする。

体験したことを次につなげることができる。

知りたい・やってみたい・伝えたいという思いをもつ

前向きな思い (やる気・勇気・自信)

子どもたちの価値判断・自己決定による課題設定

自己肯定感 共感

①学習課題の設定の前提条件

6. 実践例

①平成 23 年 6 月 1 年生「がっこうたんけん」

	学習内容	評価の観点			
		関	思 表	気	評価規準
一 次	・ 学校生活を送る上で、関わりの深い場所へ行く。(4 時間)	◎		○	◎学校環境について関心をもって、学校探検に行くことができる。
	・ 友達とすきなものや得意なことを話し合う。(1 時間)	○	◎		◎友達と話し合い、お互いのことをよりよく知ろうとしている。
	・ 先生たちのところへ挨拶へいく練習をする。(1 時間)	○	◎		◎先生のところへ行くときの約束を知り、挨拶の練習をすることができる。
二 次	・ 2 年生といっしょにがっこうたんけんへ行く計画をたてる。(2 時間)	○	◎		◎約束やルールなどについて考え、協力して計画をたてることができる
	・ 2 年生と一緒に学校探検へ行く。(2 時間)	○		◎	◎学校にはいろいろな設備や人がいることに気づくことができる。
	がっこうたんけんへ行くための計画をたてる。(1 時間)	○	○		◎自分が行ってみたいところをふりかえり、友達と協力して計画をたてることができる。
三 次	・ がっこうたんけんで見つけたことを友達と話し合う。(1 時間)	○	◎		◎友達との話し合いを通して、学校にある場所やものをもっと知ろうとしている。
	・ 先生から教えてもらったことを友達と話し合う。(1 時間)【本時】	○	◎		◎友達や先生と話すことを通して、先生のことをもっと知ろうとしている。
	・ 学校クイズ大会の準備をする。(1 時間)	○	◎		◎学校クイズを出すために今までに知ったことをまとめることができる・
四 次	・ 学校クイズ大会をひらく。(1 時間)	○		◎	◎学校クイズ大会にすすんで参加し、自分の周りにはいろいろな学校環境があることへの気づきを深めることができる。

評価規準

関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
・ 学校環境に興味をもち、自分からいろいろなことを知ろうとしている。	・ 自分が発見したことを友達に伝えることができる。	・ 自分をとりまく学校環境のことを知り、多くの人やものに支えられて楽しく学校生活をおくることができることに気づいている。

②平成 23 年 11 月「秋であそぼう」 平成 24 年 2 月 1 年生「冬であそぼう～もうすぐ 2 年生」

	学習内容	評価の観点				
		関	思 表	気	評価規準	
○ 次	幼稚園年少児との交流（秋であそぼうの単位において） 冬のあそびをこれまでにやってきている。					
一 次	・幼稚園さんを初等部に招待するために必要なことを話し合う。（2 時間）	◎		○	・2 学期に行った「あきであそぼう」をふりかえり、どのように園児を招待すればよいか考えることができる。	～2/3
	・幼稚園さんを初等部に招待するための準備をする。（3 時間）	○	◎		・園児を招待するために、どのようなことをすればよいか考え準備することができる。	2/13(月)
	・幼稚園さんに初等部のことを教えたり、ふゆのあそびを一緒にしたりする。（2 時間）	○	◎		・幼稚園生に初等部での生活のことを教えたり、一緒になかよく遊んだりすることができる。	2/14(火)
二 次	・1 年生の間に自分が経験してきたことを話しあう。（1 時間）	○		◎	・幼稚園生との関わりを通して、自分の成長に気づくことができる。 ・2 年生にむけての自分なりの見通しをもつことができる。	幼稚園とのふりかえりも含めて 2/17(金)まで
	・1 年生の間に自分が経験してきたことを冊子にまとめる。（4 時間）	○	◎		・1 年生になってからの 1 年間であったことをふりかえり、まとめることができる。	2/20(月) ～2/29(水) くらいまで
三 次	・2 年生ではどのようなことをするのか、2 年生に聞いてみたいことを話し合う。（2 時間）	○	◎		・2 年生にインタビューする内容を考えることができる。	3/2(金)までに
	・2 年生に、インタビューをする。（1 時間）	○	◎		・2 年生になってやることを、2 年生にインタビューすることができる。	3/6～ 3/8くらいに
	・2 年生に向けて、自分ががんばりたいことをまとめる。（1 時間）		◎		・2 年生へのインタビューをもとに、自分がどのような 2 年生になりたいか考えることができる。	～ 3/9(金)
	・クラスみんなで、1 年間の自分たちの成長をふりかえる。（1 時間）			◎	・自分たちの 1 年間をふりかえり、自分の成長に気づくことができる。	～ 3/12(金)

評価規準

関心・意欲・態度	思考・表現	気づき
・自分ができるようになったことを活かして、友達や異年齢の子と関わろうとしている。 ・活動を通して、これからの自分の成長に見通しをもとうとしている。	・友達と協力して、幼稚園の子を楽しませる方法を考え、教えたり遊んだりすることができる。 ・自分の成長やこれからのことについて話し合ったり、絵や文にまとめたりすることができる。	・1 年間を通して、自分がいろいろなことができるようになってきたことに気付いている。 ・友達や異年齢の子との関わりから、自分の成長を感じたり、これからの目標をたてたりしている。

③平成 24 年度 第 4 学年 「命を考えよう ～生き物のお世話を通して～」

(1)年間指導計画

初等部の総合的な学習は、学級（学年）単位での学習活動、コンピュータの技能習得をねらいとした学習、英語の３つの領域に分かれて行われている。学級単位での学習活動は、原則、担任裁量で進められている。３年生では、総合的な学習の入り口として福祉をテーマに取り扱うことが多い。また初等部の行事「鎌倉めぐり」や修学旅行の指導に総合的な学習の時間があてられることが多い。

コンピュータの技能習得の学習は、単独で行われることもあるし、他教科の指導（例えば社会の調べ学習、国語の詩作り）、総合的な学習のまとめと関連づけて行われることもある。

[illegible]

(2) 单元計画

a) 単元設定の理由

過去に行った職員へのアンケート、普段の児童の生活の様子を見ると高学年になるにつれて他者の意見を素直に聞き入れることが苦手になっている傾向がある。また、与えられた課題に取り組むことはできるが、自分で課題を見つけ取り組んでいくという経験不足から、最後はひとまかせになってしまう傾向も見られる。

また、校内に学園の杜、畑や南グラウンドなどの自然環境は多くあるが、動物とのふれあい、かかわりを持つことのできる環境は全くない。植物を育てる学習活動は生活科や理科の学習でも経験することはあるが、自分より小さな動物のお世話をする経験は家庭でペットを飼っている児童をのぞけば、あまり経験している児童は非常に少ない。お世話をしてもらうことはあっても、自分が何かの命をあずかるという体験を通すことで、命の大切さに気付かせていきたいと考えた。自分より小さな生き物を愛する心が他の命を大切にしたいという感情につながり、学んだことを自分の生活に活かそうとする姿に現れることを期待して単元を設定した。

b) 単元の目標

生き物と関わりながら学ぶ中で、筋道立てて考え、自分で判断して課題解決学習を進め、生き物の命について、自分の経験や価値観と関わらせて考えることができる。

c) 単元の評価規準

○自分の身の周りにいる動植物に興味・関心を持ち、進んでお世話をしようとする事ができる。

○動植物との関わりを通し、命の大切さに気付き、自分の他の生活の中に活かす具体的な生き方を考えたり、実際に行動したりすることができる。

(3) 学習活動の実際

a) 価値判断・自己決定力を養う活動

単元の中で自らの価値判断・自己決定力を必要とする言語活動による交流場面を意図的に設けることによって、活動を活動しただけで終わらせるのではなく、活動の価値に気づき、自分の考えを深めたり、次の活動への意欲をもったりすることができるようにした。

【お世話したい生き物を考えよう】

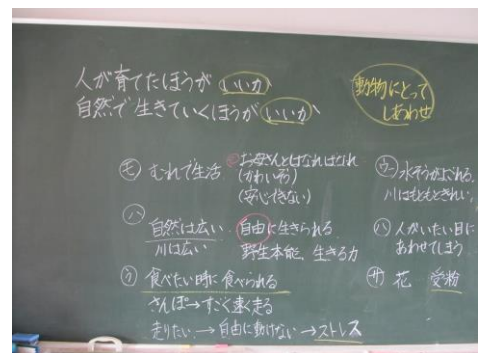
4月、総合的な学習を始めるにあたり、子どもたちに今年度は総合の時間に生き物のお世話をしていくということ伝えて。最初はこれまでの学校での経験から、植物を育てるということにのみ子どもたちの意識は向いていたが、動物でも構わないということを伝えると様々な意見が出てきた。最初はとにかく自分が好きな動物の名前を言うのみで、実際に自分がお世話ができるかどうか、準備することができるかということは考えられない子もいた。

実際に自分たちがお世話をしていくということをふまえてクラスで話し合いをさせた結果、最終的には「ウサギ」「モルモット」「ハムスター」「文鳥」「カエル」「ウーパールーパー」「ハーブ」「サボテン」を育てることに決まった。

【自然の中で生きることと人にお世話してもらうこと】

自然の中派と人にお世話をしてもらう派のどちらかに自分の意見を決め、お互いの意見を伝え合う学習を行った。話し合いのルールとしては、

- ①それぞれの立場の意見・その理由を伝える
- ②相手の意見に対しての自分の考え・その理由を伝える
- ③勝敗をつけるものではないということを最初にあげた。



話し合いの最後には、どちらにもそれぞれの良さがあるのでどちらか一方とは言えないという意見を述べた子や、人の意見を聞きやはり反対の生き方のほうが生き物にとって幸せだと思うようになったと考えが変わった子もいた。相手の意見を否定するだけではなく、相手の意見のよさを自分の考えとして取り入れることができたのが子どもたちのその時間の中での成長であると言える。

【長い休みのお世話はどうしよう】

夏休み前になり、休み中の生き物のお世話はどうすればよいか子どもたちと一緒に考える時間を設けた。これまでに自分たちが経験したことがないことについての話し合いとなったため、こちらが予想していない答えがいろいろと出てきた。

話し合い活動が続いていくと、徐々に自分の意見を通したいがために、「もし」「～だったら」という意見にこだわる子どもの姿が見られるようになる。例えば、基本先生が休み中も学校に来るので、みんなが来れない日は先生に面倒を見てもらうという意見にまとまりかけた時に、もし先生が交通事故にあって学校に来れなくなったら困るので、必ずみんなが行くようにしたほうがいい

という意見をいう子がいた。最初からその意見を否定するのではなく、命をあずかるということは責任がとてもあるということをふまえさせるとともに、何か一つのやり方だけ決めておくのではなく、考えに幅を持たせることができるように軌道修正を行うことも必要である。

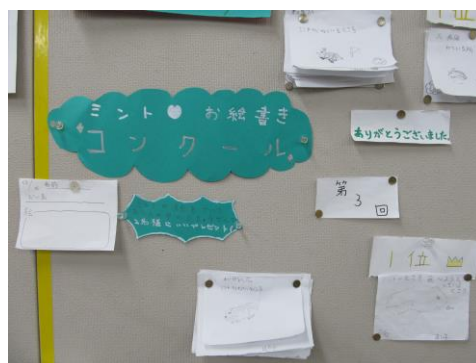


結果、休み中は学校に来れる日を家の人と相談して予め決めておき、来れる人と先生でお世話をしていくということに決まった。

b)ふれあいタイム

総合的な学習の時間の中でも、特に生き物たちと関わったり、掲示物を作成したり、グループごとの活動計画をたてたりする時間として設けたのが「ふれあいタイム」である。ゲージの掃除、写真をとって写真集をつくる、インターネットや本を使ってよりよい育て方を調べる、などの活動を行った。

休憩時間にも自分たちでスケッチコンクールを開催したり、モルモットがあなたの質問に答えますコーナーを作ったり、グループごとに生き物を媒介とした活動を行う姿が見られた。



c)みどり祭での発表

生き物たちのことをもっとみんなに知らせるためにはどうすればよいかという課題を設定し、伝える対象、伝える場、伝え方について考え、活動に取り組みさせていった。11月に毎年「みどり祭」があるため、発表の場は指導者が設定した。子どもたちが伝えたい相手としては、①家族②他のクラスの友達③低学年の子という順であった。みどり祭は子どもたちの伝えたい相手すべてに伝えることのできる場である。

話し合いの結果、それぞれのグループでニュース番組を作ることになった。育てている生き物の特徴や、自分たちがどのように関わっているかについてをまとめ、グループごとに発表を行った。自分たちがお世話している中でみつけた動物の仕草、匂い、大きさなどをクイズ形式にして発表するグループもあった。

7. おわりに

①課題設定の場における子どものみとり

- ・課題との出会いの場
 - ・子どもたちのこれまでの経験がどの程度か
 - ・できることと、できないことの判断
 - ・子どもが一番やりたいこと
- ⇒活動の必然性

②価値判断力・自己決定力を高める場の設定

- ・ただ活動をやらせればよい？
 - ・課題とのかかわらせ方
- ⇒対象となるもの・こと・人ととの関わり方のスキル
- ・他者、他グループとの共通点・相違点を見つける場

③学習のまとめ・評価

- ・課題に対しての子どもの自己評価
 - ・まとめ方
 - ・評価内容
- ⇒課題に対して～することができた
- ⇒さらにその先の評価

～するようになった、～することを意識するようになった

④その他（動物を学習の場に取り入れることについて）

- ・衛生面、安全面への配慮
- ・施設、設備面
- ・教員の意識

		低学年	中学年	高学年
話すこと	指導内容 学習指導要領による	ア 身近なことや経験したことなどから課題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 イ 相手に対して、話が事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話すこと。 ウ 姿勢や口形、声の大きさや速などに注意して、はっきりした発音で話すこと。	ア 関心のあることなどから課題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。 イ 相手や目的に応じて、理由や事柄などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用ゐるなど適当な言葉遣いで話すこと。 ウ 相手を聴き、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意しながら話すこと。	ア 考えたことや伝えたいことなどから課題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。 イ 目的や意図に応じて、事柄を明確に伝えるように話の構成を工夫しながら、場にはた適当な言葉遣いで話すこと。 ウ 共通語と方言の違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。
	話すスキル 初級下への目標	1 名前を呼ばれたら、元気がいいと返答する。 2 相手の顔を見ながら話す。 聞上手の様子を見ながら話始める。 3 場にはた声の大きさや速で話す。 4 姿勢に気を付けて話す。 5 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話す。 6 原音を見ながら話す。	2 聞いている人の顔を見ながら話す。 聞上手を意識で話す。 3 場にはた声の大きさや速で話す。 言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意で話す。 4 話すべきの姿勢を意図する。 5 目的にはた適当な言葉遣いで話す。 6 発表用の原音を用意、それを見なくてもスムーズに話せるように準備する。 7 発表したい内容に合わせて適当な資料を選び、それを見せながら話す。	2 自分の視覚意識で話す。 聞いている人の反応を確認しながら話す。 3 声を相手に届かせることを意識で話す。 速や間の置き方を考えて話す。 5 目的や場にはた適当な言葉遣いで話す。 6 自分の意図をよりよく伝えられるような原音を用意で話す。 7 自分の意図をよりよく伝えられるような資料を用意で話す。
	話の内容 初級下への目標	I 課題を決め、必要な事柄を知らせたいことを話す。 II 理由を挙げながら話す。 III 思っていることを短時間で話す。 同じことを繰り返さないように話す。 IV 話の始めと終わりを伝える。 事柄の順序を教ながら話す。 V 主語と述語の関係に注意で話す。	I 出来事の原因や調査の結果を語る。 III 伝えたいことを選び、筋道を立てて話す。 IV 相手や目的に応じて、調べたことなどについて、筋道を立てて話す。 V 修飾語を使って詳しく話す。 接辞を正しく使って話す。	I 聞上手の意図を捉えて話す。 考えたことを話す。 II 根拠を明らかにして話す。 IV 目的や意図に応じて、事柄を明確に伝えるように話の組み立てを工夫で話す。 V 尊敬語・謙譲語・丁寧語を使って話す。 対比・例・比喩・擬態語を果敢に使用して話す。
	事例	☆「～です。そのわけは～です。」 ☆「～と同じです。」 ☆「わたしは～なと思います。」 ☆「～のころから、私は～なと思います。」	☆「理由は～です。」 ☆「～に比べて～です。」 ☆「～と同じで～です。」 ☆「～と外違って～です。」 ☆「～に質問ですか？」 ☆「おまとめと～」	☆「〇〇さんの考えに付け加えると～です。」 ☆「それ、言と～」 ☆「～だからです。」「その理由は～です。」 ☆「みなさんの考えを比べてみると～なので、〇〇さんの考えは正しい、考え方なと思います。」 ☆「おまとめと～」

			☆「〇〇さんの～と、△△さんの～は似ているので、まとめられると思います。」 ☆「私の考」は～で、〇〇さんと似ています。」 ☆「私の考」は〇〇さんと違って、～です。」	
聞くこと	容	エ 大事なことを落さないようにしながら、興味をもって聞く。	エ 話の中心に気を付けて聞き、質問したり感想を述べる。	エ 話し手の意図と伝えながら聞き、自分の意見と比べるとして考をまとめること。
	聞くスキル 初級としての目標	1 話し手の声を見て聞く。	1 発表者・資料を必要に応じて見ながら聞く。	
		2 他のことをしながら集めて聞く。		
		3 拍手したり、なぞ、だんながら聞く。 共感ながら聞く。	3 理解できるときはなぞなど、発表者へ態度で表せる。	
		4 発表が終わるまで黙って聞く。		
		5 興味を持って聞く。		
			6 資料に続きなどとして、発表の要点抽出しながら聞く。	
聞くこと	聞き取り 初級としての目標	I 大事なことを落さないように聞く。	I 話の中心に気を付けて聞く。	
		II 相手が伝えたことを見逃さず。		II 話し手の意図を考ながら聞く。 友達の意見を尊重しながら聞く。
		III 発表が聞き取れなかった場合が聞き直す。	III 分からないときは、分かるまで聞き直す。 発表内容を確認しながら聞く。	III 分からないことは、進んで質問する。
		IV 話を聞いて知らないことを見逃さず、尋ねる。	IV 自分なりの感想を持ちながら聞く。 納得するまで聞く。	
			V 聞いたことをまとめる。	
			VI 自分の考との類似点・相違点を考ながら聞く。	VI 相手の考と自分の考を比べながら聞く。
				VII 発表していることは、客観的事実なのか、個人の意見なのかを考ながら聞く。
		VIII 発表内容をメモしながら聞く。 ・課題をメモする。(単語) ・大事な言葉を落さないようにする。 ・3WH ・話の大意をつかむ。 「～のこと」「～について」「～の話など」	VIII 発表内容をメモしながら聞く。 ・課題をメモする。 ・話のまとめにメモする。 ・話の内容を箇条書きにする。 ・3WH	VIII 発表の中で、大げたと考たところをメモしながら聞く。 ・記号や線、矢印、数字等を使。 ・キーワードとなる言葉や大げたと思ふ言葉をメモする。 ・話のまとめに必要を考ながらメモする。 ・自分が必要な情報を選んでメモする。 ・自分なりのメモの取り方を工夫する。
	具体例	☆「もう一度言ってください。」	☆「〇〇さんに質問があります。～は～ですか。」	☆「〇〇さんに～について質問があります。～は～でいいですか。」
		☆「もう少し大きな声で言ってください。」	☆「〇〇さんの考は、～というんですね。」	☆「それは、～と考でいいですね。」
		☆「なぜ、～したのですか。」		

話し合つと	学習指導要領による 指導内容	オ 互 の話を集めて聞き、議題ごって話し合ふこと。	オ 互 の考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進みごって話し合ふこと。	オ 互 の立場や意見をよきとせながら、計画的に話し合ふこと。
	話し合 初級としての目標	1 話の仲間入をする。 2 みんなの方を向いて、みんなに聞かせる声ではっきりと話す。 3 自分勝手で話さない。 4 人の発表が終わってから意見を言うようにする。	1 進んで話し合ふに参加する。 2 聞いている人の顔を見ながら話す。 3 自分から話さないで、相手の話を聞く。 4 発表が終わったら、自分の意思表を明確にする。 5 聞いたことをまとめる。 6 互 の考えの共通点や相違点を考えながら話し合ふ。 7 目的に応じて、質問したいことを順序立てて明確に伝える。 8 質問されたことに対して、明確に答える。	2 聞いている人の反応を確認しながら話す。 5 話の要点を捉え、メモしながら聞く。 9 話し合ふの活動を通して、意見の主張、考えの訂正をする。 10 相違点を見だし、助言・提案をする。
	具体例	☆「〇〇さんに質問します。」 ☆「〇〇さんの意見に付け足します。」 ☆「同じです。」 ☆「いいかもしれません。」	☆「言い換えます。」 ☆「質問があります。」	☆「〇〇さんと同意見のですね。」 ☆「〇〇さんは反対の意見のですね。」
参考	学習指導要領による 言語活動例	ア 事物の語彙や経験の報告をしたり、それを聞いて感想を述べたりすること。 イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合ふて考えを一つにまとめること。 ウ 場面に合わせておしゃべりしたり、必要なことについて身近なことと関連を合たりすること。 エ 知ることがなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。	ア 出来事や語彙や調査の報告をしたり、それを聞いて意見を述べたりすること。 イ 学級全体で話し合ふて考えをまとめる、意見を述べ合たりすること。 ウ 図表や絵・写真などから読み取ったことを基に話し合ふ、聞いたりすること。	ア 資料を提示しながら語彙や報告をしたり、それを聞いて助言や提案をしたりすること。 イ 調べたことやまとめたことについて、討論などをする。こと。 ウ 事件や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。

総合的な学習

秋本篤志

1. 教科の研究テーマ

子どもの価値判断・自己決定力を育む総合的な学習
～第4学年 「命を感じよう」の実践より～

2. 初等部の総合的な学習

①総合的な学習の時間の目標

(1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。

(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

以上の目標を4年間で身につけさせることをねらう

②初等部における総合的な学習の時間の課題とする内容（4項目）

- (1) 環境
- (2) 福祉
- (3) 健康・安全・命
- (4) 歴史・地域

原則として、次年度は同じ項目は取り扱わない。

③各学年における総合的な時間における目的達成について

(1) 課題を見付け (2) 自ら学び (3) 自ら考え (4) 主体的に判断 (5) 問題解決を主体的、創造的に取り組む態度を育むことが目的であるが、3年生から全てを達成し、くことには、難があると考えられる。そこで、3年生ではこのうち、2個程度を担当が重点目標と定め、活動をしていく。段階的に目標項目を増やし、卒業時には全ての項目達成を目指す。

学年	達成項目数
3年	2～3
4年	3～4
5年	4～5
6年	5

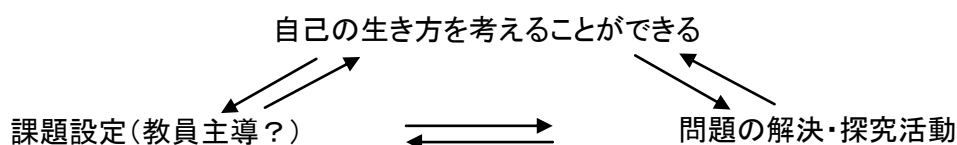
学年、クラスの実態に応じて、どの項目を選択するかは担任に委ねられるが、3年生で、適切な課題を見つけることは難しい。また、4年生で主体的に判断し、全てを進めることも前に同じである。教員がどの程度まで主導するかを見極める必要がある。

④総合的な時間のまとめ方について

初等部の総合的な時間のまとめ方は、問題解決等をした後、模造紙にまとめる、発表する等で終わってしまうことが常である。

目標にあるように、最終的に目指す児童像は『自己の生き方を考えることができる』である。3、4年においても上記の力が付くことが目標であるが、そこまで望むことは難しい面もある（例 福祉について学び、障害者を気遣う態度を養うことを目標とする）。

（1）そこで、5、6年生では『自己の生き方を考えることができる』（経験や調査を通して学んだことを自己へフィードバックできる）を念頭に、課題設定を行わなければならない。



（2）問題の解決や探究活動によって得た、知識・経験を生かして、自己の生き方（普段の生活等）での心がけること、変えるべきこと、気遣うべきこと等を考えさせる（話し合わせる）。さらに、具体的行動が考えられる場合は（その場合が多いと思われる）、実際に行動をさせる。

例 ごみ問題を学べば、ごみを拾う、ごみを減らす活動をさせる。

福祉について学べば、実際に介護を経験する（老人ホーム等に訪問する）

安全について学べば、命を守る方法を冊子にする・実体験する

地域について学べば、地域理解をさらに深める為、人・施設を訪問さらに知識を深める等

紙面上でできる・理解できることもたくさんあるが、実際に行動を起こすことを考えると、さらに、理解が深まり、『自己の生き方を考えることができる』ようになると考える。

なお、初等部においては、英語活動・コンピュータに関する知識・技能の習得も総合的な学習として行われている。

3. 生活科の指導とのつながり

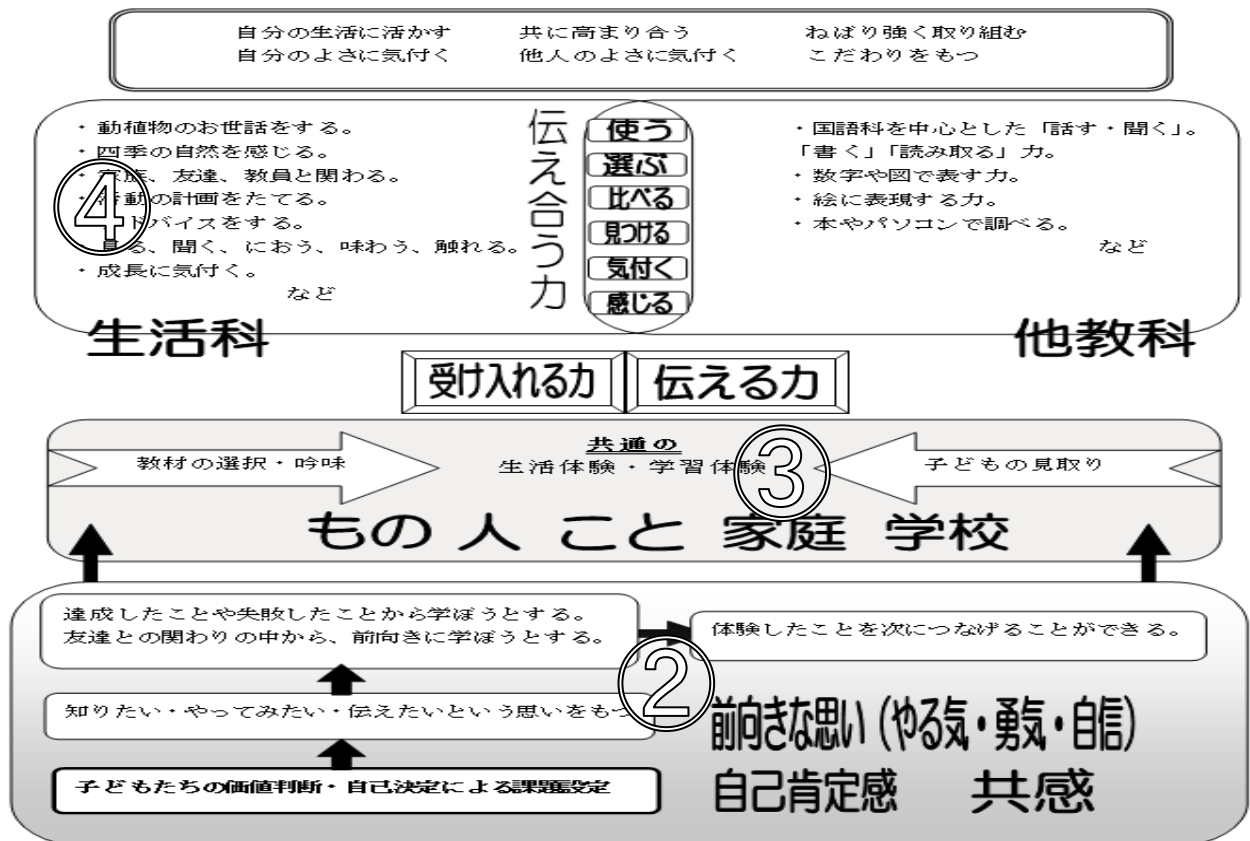
子どもの価値判断と自己決定力を育むことを考えた際、本校で行っている生活科と総合的な学習においては、その「ねっこ」になる部分においては共通の考え方があると言える。自らが課題を設定していくまでの前提条件となるもの（図①）、学習課題の設定（図②）、学習の際に必要とされる力（図③）、目指す児童像（図④）がそれにあたる。

③については、学習課題によって子どもたちが受け入れるために必要とされる力が変わってくるところがある。例えば、歴史：鎌倉めぐりをテーマとするのであれば、鎌倉にある歴史上の遺物や地理的条件に興味・関心をもち、その由来について知ろうとすることが子どもの受け入れる力として必要となる。

④については、生活科においては気づきの質を高めることが目標となっている。総合的な学習においても同様のことが目標とされるが、さらに自己の生き方に活かそうとする態度を養うことも目標とされる。

生活科で身に付けてきた力を基盤とし、総合的な学習においてその力を高め、深め合うことを目標とし学習を展開していきたいと考えている。

気づきの質を高める・高め合う＝深め合う



第4学年 「命を考えよう ～生き物のお世話を通して～」

初等部の総合的な学習は、学級（学年）単位での学習活動、コンピュータの技能習得をねらいとした学習、英語の３つの領域に分かれて行われている。学級単位での学習活動は、原則、担任裁量で進められている。３年生では、総合的な学習の入り口として福祉をテーマに取り扱うことが多い。また初等部の行事「鎌倉めぐり」や修学旅行の指導に総合的な学習の時間があてられることが多い。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考										
	1 2 3 4	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3											
総合的な活動	環境・福祉・健康・安全・命・歴史・地域	小さな生き物たちの命を考えよう(全53時間) わかる準備をしよう(8時間) - 自分が実際にお世話をしてみた、動植物を決める。 - お世話をしていくうえで、必要なものは何か考える。 生き物の幸せを考えよう(3時間) - 人がお世話をするのと自然の中で生きていくのでは、動物にとってどちらが幸せか話し合う。 みどり祭で発表しよう(20時間) - グループでどのような形態で発表するか決める。 - 伝えたい内容の原稿を作り、ニュースを作る。 - ビデオで撮影する。 休みの日ののお世話の仕方を考えよう(20時間) Part2 1年間をふりかえろう(8時間) - 動植物との関わりをふりがたり、命とは何かにについて自分なりの答えを出す。 1年間の活動から、これから自分がなりの命との関わり方・具体的な行動について考える。												合計53									
		ふれあいタイム ・担当の生き物のお世話をします。 ・生き物とふれあい、様子を記録したり、次回の活動計画を立てる。 ・掲示物の作成。																					
		題材	コンピュータで手紙を書く⑤					コンピュータで絵本を作ろう⑧					インターネットをつかう⑨⑩⑪					パソコン検定ブロンズ⑫					合計18
		概要	ローワードで、ローマ字入力の練習をする。 ローマ字入力や文字列のコピー、貼り付けなど、キーボード操作の基本的な知識の習得を目指す。目的に応じて学習進度を変えて書く。					Qスマイルポイントで絵本の制作。はっぴょう名人で絵本作成にする。 自分の得意な絵本の中に取入れられる。					Q調べたことをホームページを使って検索し、印刷する。 つたわるねっとを使い、メールを送受信したり、掲示板を見たり書き込んでみる。					O4年度までの学習内容を復習を確認する。					指導者 に時 と応 けが じあ て主 なる 実 績 ある
		目標スキル	ローマ字入力・漢字、かなひらがなの変換・英字の属性認識・ソフトの起動、終了・データの保存、読み込み・印刷					プレゼンテーションの編集・ソフトの起動、終了・画像、音響の取り込み・データの保存、読み込み・印刷					インターネットの利用・検索エンジンを使って調べる（ディレクトリ検索）・印刷					4年度までの内容（図形の作製、ローマ字入力、データの読み込み、保存・印刷）					
利用ソフト	Microsoft Office Word 2007					スマイルポイント はっぴょう名人					なるほどねっと つたわるねっと ドクターマウス					スマイルポイント 一太郎スマイル Microsoft Office Word 2007					*更新		
英語Ⅰ (国際理解)	My Spring Vacation (1) Unit7 (2)	Unit7 (2) Unit8 (2)	Unit8 (2) Unit9 (2)	児童英検を振り返ってI (1) Unit8 (1)	My Summer Vacation (1) Unit9 (1) Review3 (2)	Review3 (2) Unit10 (2)	児童英検を振り返ってII (1) Unit10 (2) Unit11 (1)	Unit11 (3)	My Winter Vacation (1) Unit12 (3)	Unit12 (1) Review4 (3)	Review4 (1) Checklists (1)		合計38										

過去に行った職員へのアンケート、普段の児童の生活の様子を見ると高学年になるにつれて他者の意見を素直に聞き入れることが苦手になっている傾向がある。また、与えられた課題に取り組むことはできるが、自分で課題を見つけ取り組んでいくという経験不足から、最後はひとまかせになってしまう傾向も見られる。

また、校内に学園の杜、畑や南グラウンドなどの自然環境は多くあるが、動物とのふれあい、かかわりを持つことのできる環境は全くない。植物を育てる学習活動は生活科や理科の学習でも経験することはあるが、自分より小さな動物のお世話をする経験は家庭でペットを飼っている児童をのぞけば、あまり経験している児童は非常に少ない。お世話をしてもらうことはあっても、自分が何かの命をあずかるという体験を通すことで、命の大切さに気付かせていきたいと考えた。自分より小さな生き物を愛する心が他の命を大切にしたいという感情につながり、学んだことを自分の生活に活かそうとする姿に現れることを期待して単元を設定した。

(2) 単元の目標

生き物と関わりながら学ぶ中で、筋道立てて考え、自分で判断して課題解決学習を進め、生き物の命について、自分の経験や価値観と関わらせて考えることができる。

(3) 単元の評価規準

○自分の身の周りにはいる動植物に興味・関心を持ち、進んでお世話をしようとする
ことができる。

○動植物との関わりを通し、命の大切さに気付き、自分の他の生活の中に活かす
具体的な生き方を考えたり、実際に行動したりすることができる。

③ 学習活動の実際

(1) 価値判断・自己決定力を養う活動

単元の中で自らの価値判断・自己決定力を必要とする言語活動による交流場面
を意図的に設けることによって、活動を活動しただけで終わらせるのではなく、活動
の価値に気付き、自分の考えを深めたり、次の活動への意欲をもったりすることがで
きるようにした。

【お世話したい生き物を考えよう】

4月、総合的な学習を始めるにあたり、子どもたちに今年度は総合の時間に生き物
のお世話をしていくということ伝えて。最初はこれまでの学校での経験から、植
物を育てるということにのみ子どもたちの意識は向いていたが、動物でも構わないと
いうことを伝えると様々な意見が出てきた。最初はとにかく自分が好きな動物の名前
を言うのみで、実際に自分がお世話ができるかどうか、準備することができるかとい
うことは考えられない子もいた。

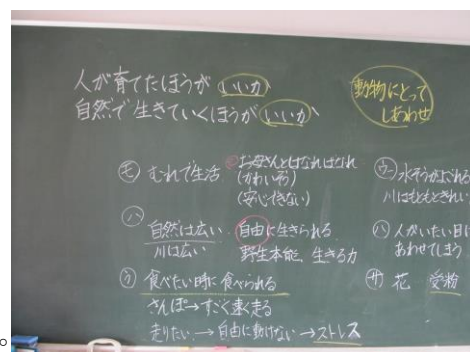
実際に自分たちがお世話をしていくということをふまえてクラスで話し合いをさ
せた結果、最終的には「ウサギ」「モルモット」「ハムスター」「文鳥」「カエル」「ウ
ーパールーパー」「ハーブ」「サボテン」を育てることに決まった。

【自然の中で生きることと人にお世話してもらうこと】

自然の中派と人にお世話をしてもらう派のどち
らかに自分の意見を決め、お互いの意見を伝え合
う学習を行った。話し合いのルールとしては、

- ①それぞれの立場の意見・その理由を伝える
- ②相手の意見に対しての自分の考え・その理由を伝える
- ③勝敗をつけるものではないということを最初にあげた。

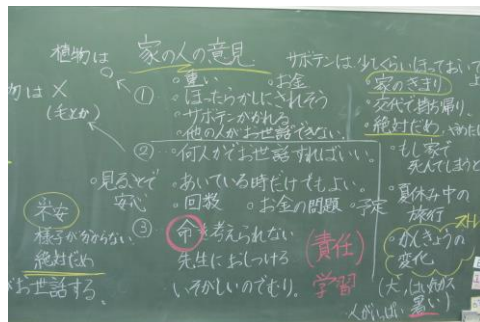
話し合いの最後には、どちらにもそれぞれの良さがあるのでどちらか一方とは言え
ないという意見を述べた子や、人の意見を聞きやはり反対の生き方のほうが生き物に
とって幸せだと思うようになったと考えが変わった子もいた。相手の意見を否定する
だけではなく、相手の意見のよさを自分の考えとして取り入れることができたのが子
どもたちのその時間の中での成長であると言える。



【長い休みのお世話はどうしよう】

夏休み前になり、休み中の生き物のお世話はどうすればよいか子どもたちと一緒に考える時間を設けた。これまでに自分たちが経験したことがないことについての話し合いとなったため、こちらが予想していない答えがいろいろと出てきた。

話し合い活動が続いていくと、徐々に自分の意見を通したいがために、「もし」「～だったら」という意見にこだわる子どもの姿が見られるようになる。例えば、基本先生が休み中も学校に来るので、みんなが来れない日は先生に面倒を見てもらうという意見にまとまりかけた時に、もし先生が交通事故にあって学校に来れなくなったら困るので、必ずみんなが行くようにしたほうがいいという意見をいう子がいた。最初からその意見を否定するのではなく、命をあずかるということは責任がとてもあるということをふまえさせるとともに、何か一つのやり方だけ決めておくのではなく、考えに幅を持たせることができるように軌道修正を行うことも必要である。

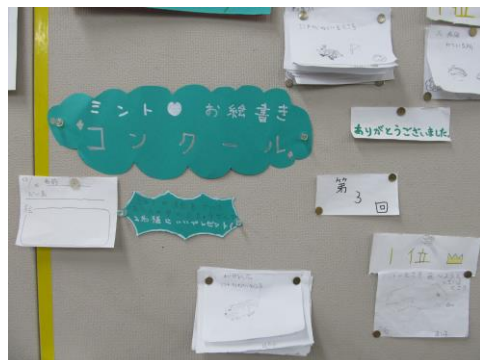


結果、休み中は学校に来れる日を家の人と相談して予め決めておき、来れる人と先生でお世話をしていくということに決まった。

(2) ふれあいタイム

総合的な学習の時間の中でも、特に生き物たちと関わったり、掲示物を作成したり、グループごとの活動計画をたてたりする時間として設けたのが「ふれあいタイム」である。ゲージの掃除、写真をとって写真集をつくる、インターネットや本を使ってよりよい育て方を調べる、などの活動を行った。

休憩時間にも自分たちでスケッチコンクールを開催したり、モルモットがあなたの質問に答えますコーナーを作ったり、グループごとに生き物を媒介とした活動を行う姿が見られた。



(3) みどり祭での発表

生き物たちのことをもっとみんなに知らせるためにはどうすればよいかという課題を設定し、伝える対象、伝える場、伝え方について考え、活動に取り組ませていった。11月に毎年「みどり祭」があるため、発表の場は指導者が設定した。子どもたちが伝えたい相手としては、①家族②他のクラスの友達③低学年の子という順であった。みどり祭は子どもたちの伝えたい相手すべてに伝えることのできる場である。

話し合いの結果、それぞれのグループでニュース番組を作ることになった。育てている生き物の特徴や、自分たちがどのように関わっているかについてをまとめ、グループごとに発表を行った。自分たちがお世話している中でみつけた動物の仕草、匂い、大きさなどをクイズ形式にして発表するグループもあった。

5. 成果と課題

成果としては、自分たちがお世話をしたいものは何かということを考えさせるところから活動を始めたので、多くの子どもたちが自分がお世話をする生き物たちについて積極的に関わりを持とうとしたことがあげられる。自分がお世話をする生き物については愛着をもち、自分がお世話をしてあげなければ生きていけないという思いを持つことができていた。

途中、大変残念なことであったが、ハムスターが脱走してしまい命を落とすということがあった。その時はクラス全員でお墓をつくり、その命がなくなってしまったというものの悲しさを共有することができたように思う。ハムスターをお世話していたグループの子どもたちを中心にこれからどうしていくかを考えさせた。育てていたハムスターがいなくなってしまったからといってすぐに次のハムスターを飼い始めるのは、死んでしまったハムスターがかわいそうだという意見が出てきた。期間を決めて、お墓まいりを続けていきたいという声も出てきて、休み時間に毎日のようにお墓まいりに行く子どももいた。学年末をむかえても、いつまでも忘れないようにしていきたいという意見も出てきて、今でもお墓まいりに定期的に行っている子どももいる。生き物の死を通して命を考えることができた貴重な体験となったと考える。

課題としては、一番のテーマであった「命」についてどこまで子どもたちに考えさせることができたかということがあげられる。お世話をしようという気持ちは持っていたし、命は大切だという気持ちも持っていた。では、命を大切にすることは生き物を育てる以外でもあるかということまで、ふみこんで考える機会をもっと設ける必要があったように感じている。

次に活動に対しての子どもたちの中での温度差があったことがあげられる。特に植物を育てる子にとっては、動物に比べて大きな変化が見られないためしばしばほったらかしにしてしまうことがあった。同じようなことをやり続けていると飽きが出てくることもあったので、活動が停滞してきたときには教師側からの働きかけがもっと必要であったように考える。

最後に、学校で動物を飼育するということの難しさがあげられる。今回はクラス単位での学習を行ったため、担任が生き物の管理を行った。哺乳類や鳥類を飼うことになれば、子どもたちのアレルギーの問題や動物の病気、休日のお世話などの課題がある。保護者への協力依頼や専門的な知識・労力も必要となる。子どもたちと一緒に命をあずかるという意識をもって取り組まなければならないので、もし学校全体で取り組むということになれば、教員間での意識の統一も図っていかなければならない。子どもたちの意識を高めていくためにも、より多くの人への協力をよびかける工夫が必要となる。

